

高田のじやう NPOのじやう

鯖江市 大森 宏（南本町一丁目出身）

現在、市町村合併や、道州制とかで世の中賑やかです。昔奈良時代、「越の国」というのがあり私の住む福井県と新潟県（他に富山、石川）が同一の行政区域だったことを存知ですか。その名残でしょうか、今年福井商業が優勝した高校野球の北信越大会があります。

前から地図を見て、越後、越中と続き越中と越前の間に加賀のあることに疑問を持っていました。この間武生市の語り部ボランティアさんの説明でその謎が解けたのです。もともと加賀は越前の国の一部だったのだそうです。しかし、越前の国府武生から遠く国司が廻りきれないので平安初期の弘仁年間に越前から分離したのだそうです。それから、高田藩は江戸時代の初めに越前藩の「支藩」だったらしいです。有名な松平忠直卿の妻である高田姫が子息の越後中将と共に

越前藩から高田藩へ転封されたのがその理由のようです。高田と福井は、私が四十年前に当地へ都落ちする前から交流があったのですね。

今私はボランティアらしき事をやろうとしています。これまで四十数年零細企業でいつも利益、資金繰り、生産性、コストダウンなどで必死でした。ですからリタイア後はもうそんなことは考えたくないと願っていました。ある時ノンプロフィット（非営利活動）という文字を目にしてこれだと確信したのです。そしてリタイア後には、NPOをつくりたいなと思いました。そのためには準備が必要と五十八歳の時に仏教大学の社会福祉学科（通信）に三年編入しました。二年間で必ず卒業し、社会福祉士の資格も取得すると覚悟を決めました。高校、大学時代の分までこの時には勉強しました。



私達のNPOでは、たいした「事業」はやっていません。福祉

相談、友愛訪問、傾聴ボランティア、成年後見人の申立、受任、児童文庫を少しおこなっているくらいです。たまたまビジネスマン根性が沸いてきて、大きな「収益事業」をやりたいなと思う時もあります。その時には、「ビジネスマン根性を捨てろ」、これでいいんだと反省しきりです。そんなわけで、日本社会福祉士会福井県支部に所属しています。多くのメンバーは自治体の福祉部門の職員、県市町村の社会福祉協議会の職員、特別養護老人ホームなどの介護保険施設の職員達です。彼らは年齢も若く福祉のプロで、学ぶべきことばかりです。しかし彼らに私のアマチュアの考えも主張せねばと孤軍奮闘しています。具体的に申しますと、彼らと反対に近い視点——徹底した利用者、当事者、ご本人の立場から発言、行動しています。なぜなら、もうじきに私はサービスを受けるようになるのですから、みんなが欲しいサービスを代弁できたらと思っています。

7・18福井豪雨災害のときには、郷里の皆様からお見舞の電話や、お手紙を

いただき本当にありがとございました。さいわいに、被災しませんでした。福井県には、水害復旧のために約七〇、〇〇〇人のボランティアが来られました。およはずながら、老兵の私も、参加しました。家を流された被災者の方々への「有難う、ご苦労さん」の言葉が今も耳に残っています。

写真は、今年八月四日に私達のユカチャング文庫へ講話社の巡回文庫おはなし隊が来た時のものです。

